

# IPトランシーバ について

情報システムグループ

2025年12月



本書は、PBXとIPトランシーバについて記載した資料です  
内容は、暫定的なものですが基本的な考えを記載しています

2025/10/27		初版
2025/10/28	IP500G GW削除	1 版
2025/12/19	ICOM CONNECT追加	2 版

## IPトランシーバの概要（物流倉庫向け）

IPトランシーバは、物流倉庫における現場連携・BCP対策・業務効率化を目的とした通信手段であり、従来の無線機に比べて高い柔軟性と拡張性を持ちます。

### 主な特徴

#### 1. デジタル通信による高品質・安定通信

IPネットワークを利用したデジタル通信のため、アナログ無線に比べて音声品質が高く、ノイズや混信の影響を受けにくい安定した通信が可能です。

#### 2. 多地点・リアルタイム通信

倉庫内の異なるエリアにいる複数のスタッフと同時にリアルタイム通信ができ、作業指示・トラブル対応・進捗共有を迅速に行えます。

#### 3. 高いスケーラビリティ

ネットワークベースのため、端末の追加、利用者の増減に柔軟に対応でき、業務規模の変化に強い構成です。

#### 4. オペレーションの一元管理

通信グループや利用状況を集中管理でき、倉庫全体のオペレーションを効率的に統制できます。

#### 5. セキュリティ機能

通信は暗号化されており、第三者による盗聴や情報漏洩のリスクが低く、業務連絡を安全に行えます。

#### 6. コスト効率の良さ

従来の専用無線設備に比べて、設置コスト運用コストを抑えやすく、長期的に見て経済的です。

## 7. ブロードバンド接続による広域通信

高速インターネット回線を利用することで、倉庫内に限らず、拠点間・遠隔地との通信も可能となり、業務スピードが向上します。

## 8. BCP対策（事業継続性）

災害や不慮の電話回線不通時でも、インターネット回線やLTE回線を利用して外部との通信を継続でき、BCP対策として有効です。

## 9. ICOM CONNECTによる遠隔呼び出し

ICOM CONNECTを利用することで、社外や遠隔地からでも倉庫内のIPトランシーバを呼び出すことができ、管理者・現場担当者の即時対応が可能となります。

## まとめ

IPトランシーバは、物流倉庫における迅速な現場連携・BCP対策・運営効率化を同時に実現する通信基盤です。

## 人口カバー率99%※1のauの4G LTE（800MHz帯）回線で日本全国をカバー

人口カバー率99%※1のauの4G LTE（800MHz帯）の回線を使用しているので、日本全国※2が通話圏内。従来のトランシーバーのように、通話距離の制約や不感地帯を気にせず、タイムリーな情報伝達を実現します。

- 1 「人口カバー率」は国勢調査に用いられる約500m区画において、50%以上の場所で通信可能なエリアを基に算出しています。
- 2 auの4G LTE（800MHz帯）の電波到達範囲が通話エリアになります。

また、倉庫内はWIFIを使いますので圏外は発生しません  
倉庫外に出るとLTEで動作します



## 同時通話・多重通話に対応

多くのトランシーバーは、相手の話し終わりを待ってから交互に通話しなければならないため、通話に大きなタイムラグが生じます。IP500Hのシステムは、同時通話に対応。携帯電話と同じように、お互いが同時に話せるので、自然なやりとりが可能です。また、多人数による多重通話もサポートしており、電話会議のような使い方にも対応できるほか、他のスタッフ同士の会話に重要な連絡を割り込んで伝えることもできます。



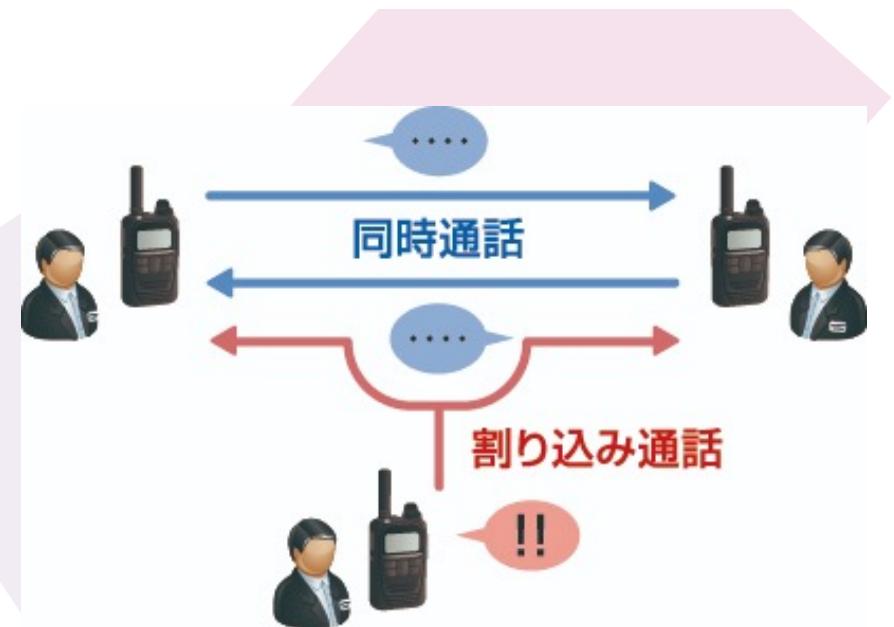
### ICOM CONNECT

アプリ間で通話・一斉連絡。  
音声の文字起こしもできる、多機能AIインカム  
アプリ。

文字起こし機能で通信内容を保存できる。

通信内容をリアルタイムで録音、文字起こし（テキスト化）します。通信内容を後で振り返ったり、検索したりすることで、口頭での重要なやりとりの聞き漏れ防止や確認作業の効率化につなげることができます。また、報告や、業務引継ぎのメモなどにも活用することができます。

※ 通話環境により録音・文字起こしが正常に動作しない場合があります。



## 手配範囲



BC-269

BC-269 × 6



BC-228

BC-228 × 1

## IPトランシーバ導入に関する見積比較と考察

今回、複数社からIPトランシーバの見積を取得しましたが、以下の理由から候補の整理を行いました。

### 1. ほくつう殿の見積について

ほくつう殿の見積は、メーカーのリストプライスを上回り、かつ流通希望価格よりも高額となっており、「参考価格」との位置づけでした。

また、通信量が別途発生する構成であるため、  
トータルコストの観点からも 今回の候補からは除外と判断します。

### 2. リース提案2社の比較

もう一方の候補はリース契約で、基本的な月額金額に大きな差はありません。

一見すると一社は安価に見えますが、ICOM CONNECT、端末用ケースが見積に含まれておらず、これらを含めると 実質的には同等の金額と考えて差し支えありません。

### 3. ケースについての判断

ケースは 250円 × 6台分の差額ですが、

リース品であるため コストカット対象とすることも可能です。

ただし、落下時の破損機器故障リスクを考慮すると、ケースを付けておく方が安全と考えられます。

ここは最終的に 運用面を重視するか、コストを優先するかの判断事項です。

#### 4. ICOM CONNECTについて（重要）

ICOM CONNECTは 製品ではなくクラウドのアカウントサービスです。

このアカウントにより、iPhone, Android, PCから場所を問わずトランシーバと通信が可能になります。

さらに、通信内容の文字起こし、履歴としての記録が可能であり、運用面で非常に有用です。

そのため、最低でも1アカウントは契約することを強く推奨します。

#### 5. 購入先の推奨について

購入先については、ジャパンエニックスを強く推奨します。

理由として、対応が丁寧親身に相談に乗ってくれた

技術的な説明が明確といった点があり、安心して任せられると判断しました。

#### 6. 他社見積への懸念

もう一社については、初回見積で 110,000円だった機器が再見積で 180,000円と大きく変動しており、  
価格の妥当性・信頼性の面で不安が残るところを感じています。

#### 7. 総括

いくつか紆余曲折はありました、

最終的には 品質・運用性・信頼性のバランスが取れた構成になると考えています。

なお、

\*\*リース料には全6台分の通信料（1,800円 × 6台）\*\*が含まれています。